

看護観に対する看護理論の影響に関する看護師の認識

Nurses' Perceptions for The Impact of Nursing Theory on The
Nursing Views鈴木 康宏・菅谷 しづ子¹⁾・高橋 方子Yasuhiro SUZUKI, Shizuko SUGAYA¹⁾, and Masako TAKAHASHI

【目的】看護観に対する看護理論の影響に関する看護師の認識とその理由について明らかにすることである。

【方法】病院で働く看護師を対象とし、2019年2月～3月にMicrosoft formsを用いたWeb調査を実施した。アールアンドデイの病院年鑑2018年版の東日本版で一般病床数200床以上の施設から無作為に200施設を選び依頼し、承諾があり配布可能数が確認できた9施設計970名に配布した。質問項目は年代、経験年数、性別、資格、看護師養成課程、学習した看護理論、看護観に対する看護理論の影響に関する看護師の認識（「看護理論はあなたの看護観に影響を与えたと思いますか？」）、その回答理由（自由記述）、看護理論以外に看護観に影響を与えたもの（自由記述）、看護観（自由記述）。単純集計および χ^2 検定を行い、自由記述の分析はKH Coderを用いて分析した。倫理的配慮として、研究者所属機関で倫理審査を受け、回答により研究同意とみなすことを書面にて説明した。

【結果】131名分のデータを用いて分析した。「看護理論はあなたの看護観に影響を与えたと思いますか？」という設問に対して「思う」、「思わない」、「わからない」と答えた3群を背景により χ^2 検定した結果、統計的な違いは認められなかった。看護理論以外に影響している特徴語は〈患者〉、〈経験〉、〈先輩〉、〈関わり〉、〈体験〉、〈臨床〉、〈家族〉、〈自分〉、〈実習〉であった。

【考察】対象の背景により、看護観に対する看護理論の影響に関する看護師の認識に統計的な違いは認められなかったが、理由について特徴的な語が明らかとなった。それぞれの回答の理由より、看護師本人の解釈が回答に影響していたと考えられる。

【結論】看護観に対する看護理論の影響に対する看護師の回答の割合と対象の背景には統計的な違いは認められなかった。看護理論が看護観に影響を与えた理由についての特徴的な語が明らかとなった。

連絡先：鈴木康宏 ysuzuki@cis.ac.jp

千葉科学大学看護学部看護学科

¹⁾ 元千葉科学大学看護学部看護学科

Department of Nursing, Faculty of Nursing, Chiba Institute of
Science

(2021年9月10日受付, 2022年1月25日受理)

I. はじめに

VUCAとはVolatility (不安定な), Uncertainty (不確実性), Complexity (複雑さ), Ambiguity (曖昧さ)の頭文字でつくられた言葉であり、変化が激しく予測困難な状態を示している。現代はコロナ禍の影響に象徴されるように先行きが不透明な時代である。医療・看護にも変化が生じており、看護学にとっても正にVUCAな時代といえる。このような時代では、看護師は看護とは何かとい

うことを考え続けていくことができなければ、変化していく時代の中で適切な看護を提供していくことは難しいといえる。そして、看護について考えていく上で重要となるのが看護観と看護理論である。

看護観とは、畑中らによると「その人なりの看護に対する見方や信念であり、自己の看護行為の基盤となる考え方」と定義されている¹⁾。また、薄井は「看護師の実践を支える看護観が一貫した科学的なものでなければ、展開される技術を“看護技術”にすることはできない。まともな意味での看護技術は、科学的な看護観の確立なくしてはあり得ないということを私は武谷三男氏に学んだのである。」と看護観の重要性について述べている²⁾。これらのことから看護観は看護の基盤であり、看護技術を支える重要なものであるといえる。

一方の看護理論については、城ヶ端らが「看護に対する見方や考え方を体系的に理論づけたもので、看護現象の説明、記述、予測をもつものなのである。」と説明している³⁾。看護理論は研究者によって、メタパラダイムや概念枠組み、理論など、抽象度などの分類によって、用語の捉え方が異なる場合がある。また、看護学は発展し続けている分野でもあるため、教育を受けた時期や教育機関により、学んできた理論が異なる可能性は否定できない。しかし、看護について説明されたものという意味では共通するものといえる。

NUCAという言葉に象徴される時代において、人々の健康な生活を医療・看護という側面で支えていく看護師にとって、看護について考え実践していくにあたり、看護観や看護理論の重要性は増してくると考える。

また、ほとんどの看護師にとって、看護理論を学ぶのは看護基礎教育がはじめてとなる。基礎教育の中で学ぶ看護理論は、看護に対する考え方を養成していくものであり、看護観にも影響するものと考えられる。しかし、看護観のみあるいは看護理論のみについての研究は行われているものの、看護観と看護理論の関係については、ほとんど研究が行われてはいないのが現状である⁴⁻⁶⁾。そして、看護理論が看護観に与えた影響をテキストマイニングの手法を用いて客観的に計算し、可視化する研究は先行研究では行われていない。

そこで、現在病院で働いている看護師が看護基礎教育で学習した看護理論、看護師の背景と看護観に対する看護理論の影響に関する看護師の認識との関連性、看護観に対する看護理論の影響に関する看護師の認識とその理由、看護理論以外に看護観に影響を与えたものについて、明らかにすることを目的として本研究を計画した。

II. 方法

- (1) 調査方法 Microsoft forms を用いた Web 調査
- (2) 対象 病院で働く看護師

(3) 調査依頼の手続き

対象施設はアールアンドディの病院年鑑 2018 年版の東日本版で一般病床数 200 床以上の施設から無作為に 200 施設を選び、看護管理者に依頼書を送付し、承諾があり配布可能数が確認できた 9 施設計 970 名に依頼用紙を配布した。依頼用紙には QR コードと研究用 HP の URL を記載し、同一者による複数回答が生じぬよう 8 桁の個別 ID を記載した。

(4) 調査内容

質問項目は年代、経験年数、性別、資格、看護師養成課程、学習した看護理論、看護観への看護理論の影響に対する認識（「看護理論はあなたの看護観に影響を与えたと思いますか？」）、その回答理由（自由記述）、看護理論以外に看護観に影響を与えたもの（自由記述）、看護観（自由記述）。

(5) 調査時期 2019 年 2～3 月

(6) 分析方法

単純集計および χ^2 検定は EZR ver. 1.38⁷⁾ を用いて分析した。自由記述回答の分析は KH Coder ver. 3a15i⁸⁾ にプラグイン 文錦®レポーティング for KH Coder を用いて分析した。

III. 倫理的配慮

研究者所属機関で倫理審査を受けて実施した。対象者へは研究参加が任意であり、自由意思が尊重され、不参加による不利益な対応を受けないこと、回答をもって研究への同意とみなすことを書面にて説明した。

表 1. 対象の背景

| 項目 | | 人数 (%) |
|------|--------------|------------|
| 性別 | 女性 | 109 (83.2) |
| | 男性 | 21 (16.8) |
| 年代 | 20 代 | 45 (34.4) |
| | 30 代 | 45 (34.4) |
| | 40 代 | 27 (20.6) |
| | 50 代 | 14 (10.7) |
| | 60 代 | 9 (6.9) |
| 経験年数 | 1 年未満 | 10 (7.6) |
| | 1 年以上 3 年未満 | 21 (16.0) |
| | 3 年以上 5 年未満 | 6 (4.6) |
| | 5 年以上 10 年未満 | 24 (18.3) |
| | 10 年以上 | 70 (53.4) |
| 養成課程 | 4 年制看護大学 | 37 (28.2) |
| | それ以外 | 94 (71.8) |

注：n = 131

IV. 結果

1. 対象の背景

134 件の回答があり (回収率 13.8%), ID が確認できた 131 名分のデータを用いて分析した。対象の背景につ

いて表 1 にまとめた。

女性看護師が 109 人 (83.2%)。年代は 20 代が 45 人 (34.4%), 30 代が 45 人 (34.4%), 40 代が 27 人 (20.6%), 50 代が 14 人 (10.7%) であった。

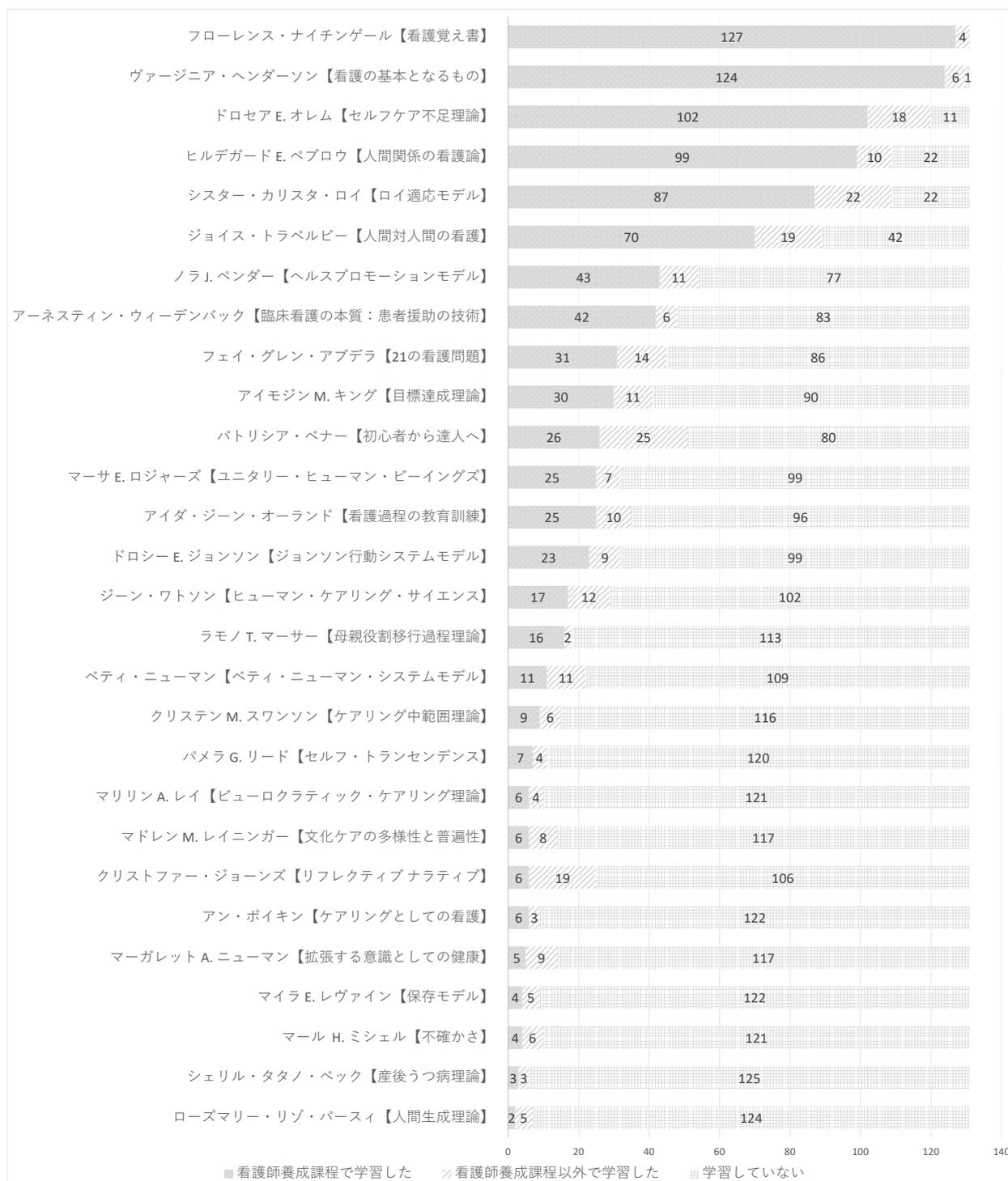


図 1. 看護師養成課程で学習した看護理論

注：棒グラフ上の数値は人数を示す。

看護師養成課程は4年制看護大学が37人(28.2%)、それ以外が94名(71.8%)であり、それ以外の内訳は専門学校が72人、看護短大が18人、その他が4人であった。

2. 看護師養成課程で学習した看護理論

看護師養成課程で学習した看護理論について看護師養成課程で学習した人数が多い理論家が上になるように図示した(図1)。理論の上位5番目はナイチンゲール(127人)、ヘンダーソン(124人)、オレム(102人)、ペプロウ(99人)、ロイ(87人)であり、次に多いのはトラベルビー(70人)であった。

3. 設問への回答と看護師の背景の関連性

「看護理論はあなたの看護観に影響を与えたと思いますか?」という設問に対して「思う」、「思わない」、「わからない」と答えた3群を看護師の背景をクロス表で集計して χ^2 検定を実施した結果、統計的に違いは認められなかった(表2)。

4. 対応分析の結果

テキストマイニングでの対応分析では特徴的でない語は原点の近くに、偏りのある語は原点から遠くに布置される。また、近くの語同士は関係性の強い語であると判断できる。また、外部変数を使用した場合は、その変数の方向に布置されている語はその変数と関係の強い語と考えることができる。

今回、「看護理論はあなたの看護観に影響を与えたと思いますか?」という設問に対して「思う」、「思わない」、「わからない」という回答を外部変数として設定し、その理由について対応分析を行った結果を図2に示した。それぞれの語が布置された配置は、語の付近にある点の位置であるが、語の出現位置が一致する場合は、複数の語がひとつの点を囲むように示されている。また、外部変数は口の位置に布置されている。

図2では縦軸と横軸の0点から伸びる点線が交わる位置が原点であり、点線円の中にある語が原点の近くにある語、つまり特徴的でない語である。

表2. 設問への回答と看護師の背景の関連性

| 項目 | (n = 63) | | | (n = 22) | | | (n = 46) | | | p-value |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|--|----------|--|--|---------|
| | 思う | | | 思わない | | | わからない | | | |
| 性別 | 女性 | 55 (87.3) | 18 (81.8) | 36 (78.3) | 0.451 | | | | | |
| | 男性 | 8 (12.7) | 4 (18.2) | 10 (21.7) | | | | | | |
| 年代 | 20代 | 19 (30.2) | 8 (36.4) | 18 (39.1) | 0.676 | | | | | |
| | 30代 | 21 (33.3) | 10 (45.5) | 14 (30.4) | | | | | | |
| | 40代 | 14 (22.2) | 3 (13.6) | 10 (21.7) | | | | | | |
| | 50代 | 9 (14.3) | 1 (4.5) | 4 (8.7) | | | | | | |
| 経験年数 | 1年未満 | 3 (4.8) | 0 (0.0) | 7 (15.2) | 0.382 | | | | | |
| | 1年以上3年未満 | 12 (19.0) | 4 (18.2) | 5 (10.9) | | | | | | |
| | 3年以上5年未満 | 3 (4.8) | 1 (4.5) | 2 (4.3) | | | | | | |
| | 5年以上10年未満 | 9 (14.3) | 5 (22.7) | 10 (21.7) | | | | | | |
| | 10年以上 | 36 (57.1) | 12 (54.5) | 22 (47.8) | | | | | | |
| 養成課程 | 4年制看護大学 | 19 (30.2) | 5 (22.7) | 13 (28.3) | 0.801 | | | | | |
| | それ以外 | 44 (69.8) | 17 (77.3) | 33 (71.7) | | | | | | |

注: この表は「看護理論はあなたの看護観に影響を与えたと思いますか?」という設問への回答と看護師の背景をクロス表で集計し、 χ^2 検定を実施したものである。また、表の数値は人数(%)を示している(p-valueは除く)。

そして、「思う」、「思わない」、「わからない」という変数の方向にある語をみることで、それぞれの回答に特徴的な語が何かを判断することができる。この図では原点から伸びているグレーの背景に含まれる語を確認することで「思う」、「思わない」、「わからない」のそれぞれの語に対しての特徴的な語と判断することができる。

(1) 特徴的でない語

対応分析では原点付近に布置されている語は、どの変数にも共通した語であり、原点からの距離が近い順に、取り立てて特徴的でない語と判断することができる。従って、〈理論〉、〈影響〉、〈勉強〉、〈看護理論〉はどの変数にも対応しない特徴的でない語といえる。

(2) 特徴的な語

対応分析では変数方向に向かって原点からの距離がより遠い語が、その変数とより関連度が高いと判断するこ

とができる。よって、その変数に特徴的な語といえる。

1) 影響していると「思う」に特徴的な語

「思う」に特徴的な語は〈基礎〉、〈考え〉、〈事例〉、〈看護〉、〈参考〉、〈納得〉、〈大切〉、〈今〉、〈振り返る〉であった。それぞれの語について◇で囲んだうえで実際の記載内容を抜粋した。

- ・いずれも、看護を考える上で〈基礎〉となったため。
- ・その時代、時代の〈考え〉もありつつ、現代にも共通しているものがあり、不変的な部分は看護として大切だと思うため自分にも影響を与えている。
- ・経験した看護ケア〈事例〉を後輩に話すことで注意する事、意識すること、準備することを伝える
- ・看護理論を用いて〈看護〉を振り返ることによってそのときに気づかなかったことに気づける時がある
- ・自分が実践した看護を振り返るうえで、とても〈参考〉になる基礎と考えるから

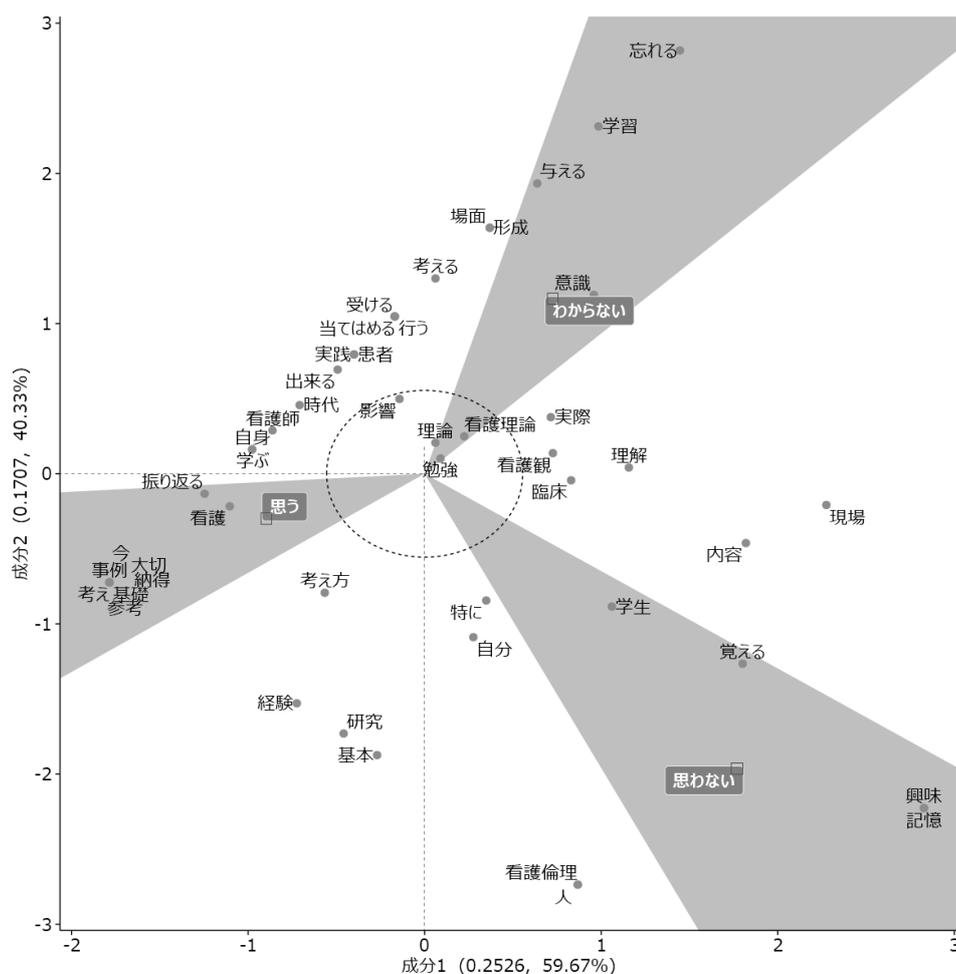


図2 対応分析：設問への回答とその理由の特徴語

注：この図は「看護理論はあなたの看護観に影響を与えたと思いますか？」という設問への回答とその理由について対応分析を行い図示したものである。

- ・自分だけでなく周囲も納得させる力が〈理論〉にはあるため
- ・看護理論を勉強して、看護について詳しく知ることができ、患者中心に看護はあり、看護師として、患者の生活を整えることが〈大切〉だと思った。
- ・キューブラーロスの死の受容モデルにて実際に患者に当てはめて考えると今の段階が分かった時があったため
- ・看護観についてわからなくなったとき〈振り返る〉ことができる

2) 影響していると「思わない」に特徴的な語

「思わない」に特徴的な語は〈学生〉、〈興味〉、〈記憶〉、〈覚える〉であった。それぞれの語について◇で囲んだうえで実際の記載内容を抜粋した。

- ・〈学生〉の頃のもので就職してからほぼ覚えてない
- ・その頃、〈興味〉を持っていなかったから
- ・あまり〈記憶〉に残ってない
- ・看護理論の内容をあまり〈覚えて〉いないから。

3) 影響しているか「わからない」に特徴的な語

「わからない」に特徴的な語は〈意識〉、〈学習〉、〈与える〉、〈忘れる〉であった。それぞれの語について◇で囲んだうえで実際の記載内容を抜粋した。

- ・ケースレポートで理論家に当てはめる程度でしか活用してこなかったから実際の看護場面で〈意識〉したことがない。
- ・〈学習〉したのが昔のことで、よく覚えていない
- ・看護理論もその要因となっていると思うが、直接的に影響を〈与えた〉とは考えられないから。
- ・看護理論を養成課程で学習し、学習したこと、内容を〈忘れて〉しまっているものもある

4. 自由記述

また、看護理論以外で看護観に影響を与えものと答えた語の出現回数が多い語から上位20位以上である5回以上のものを特徴語として抽出した(表3)。その内、10回以上のものは〈患者〉、〈経験〉、〈先輩〉、〈関わり〉、〈体験〉、〈臨床〉、〈家族〉、〈自分〉、〈実習〉であった。それぞれの語について◇で囲んだうえで実際の記載内容を抜粋した。

- ・〈患者〉さんとの関わりの中で自分の看護観が形成されてきたような気がします
- ・人生において感じたり触れたりした体験や〈経験〉。
- ・一緒に働いた時の尊敬できる〈先輩〉ナースたちの姿を見て、私の中の看護観が形成されていった。
- ・働いてから患者や先輩看護師との〈関わり〉
- ・自分の家族が入院したことや今までの看護をしてきた中での〈体験〉を通して。

- ・看護師として〈臨床〉で働いてからの経験や上司や同僚の看護観、看護に対する姿勢を見て。
- ・私の看護観は〈家族〉や経験が主になっていると思います。
- ・〈自分〉自身や身近な人の患者体験。
- ・看護学生時代の〈実習〉や臨床経験

表3. 看護理論以外で看護観に影響したと考える特徴的な語

| 抽出語 | 出現回数 |
|-----|------|
| 患者 | 42 |
| 経験 | 26 |
| 先輩 | 20 |
| 関わり | 18 |
| 体験 | 14 |
| 臨床 | 12 |
| 家族 | 11 |
| 自分 | 10 |
| 実習 | 10 |
| 実際 | 8 |
| 言葉 | 7 |
| 死 | 6 |
| 職場 | 6 |
| 人生 | 6 |
| 働く | 6 |
| 同僚 | 6 |
| 日々 | 6 |
| 環境 | 5 |
| 考える | 5 |
| 上司 | 5 |

V. 考察

1. 対象の背景

厚生労働省の平成30年衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況⁹⁾によると、2018年度では女性看護師が92.2%であるため、今回の回答者は男性の割合が実際の構成人数の割合よりも多かったといえる。

また、回答者の年齢は20代と30代の割合が多かったが、大きく偏ってはいないと考えられる。

4年制看護大学は増加してきているため、今後、4年制看護大学卒業者の割合は増加していくと考えられる。

2. 看護師養成課程で学習した看護理論

今回、看護理論家によって学習したと答える者の割合が異なっていた。基礎教育の中ではナイチンゲールやヘンダーソンなど、基本的な看護についての理論を、ほとんどの者が学習したと回答していた。

それ以外では、セルフケアについてのオレムの理論を学習した者の割合と、ペプロウやトラベルビーなど患者との関係性についての理論を学習したと答えた者、ロイの理論を学習した者が多かった。

ナイチンゲールは1860年で、ヘンダーソンやペプロウは1950年代、オレムやロイトラベルビーは1970年代に理論を発表している。

城ヶ端らは1950年代について「時代はちょうど看護師の役割とは何か医師との違いはどのようなところにあるのか等、『看護独自の機能』や、『看護とは何であるのか』といった本質的な所に関心が高まっていたことも、大きく理論開発や発展に寄与したといえるのである。」と述べている³⁾。看護師養成課程では専門職業人として、看護師の役割などについて学習していくため、この時代までにつくられた理論が学ばれることが多かったと考えられる。

その他にも、城ヶ端らは「全体から見れば1950年代半ばから1960年代半ばにかけては『ニード』が強調されている。1970年代では、『システム』が焦点となり、急激な発展をとげて現在も尚、強く支持されているといえよう。『相互作用』は各年代で取り上げられているテーマである。」³⁾と述べている。また、『相互作用』指向理論は、対象と看護師関係に焦点を当てたもので、対象のもつニード（どちらかといえば心理的ニード）充足あるいはストレスの対処方法の視点からコミュニケーション過程を強調したものである。³⁾とも述べている。

そして、看護師養成課程で学習された割合の高い理論のうち、城ヶ端らの分類³⁾によると、ナイチンゲールとヘンダーソン、オレムは表現の方法が異なるが「ニード」についての理論であり、ペプロウやトラベルビーは「相互作用」についての理論である。ロイは「システム」に分類されている。

これらのことから、心理的なものも含めて「ニード」を充足することは、患者への必要な援助を考えていく際に重要であるため、このような結果となったと考えられる。また、ロイの理論は看護過程を通して学ばれることが多かったと考えられる。

3. χ^2 検定による回答の違いと背景の比較

表2の結果については、看護観に看護理論が影響を与えたと答えた者の割合と、対象の背景については統計的に違いが認められなかった。これは、「看護理論はあなたの看護観に影響を与えたいと思いますか?」という質問は個人の主観や考え方に左右されるものであるためと考える。そして、対象の背景により統計的に違いが認められなかったため、有意性検定の結果の解釈の点からも、背景の違いが回答者の認識に影響することを否定することは不適切といえる。

また、学習した内容についての影響は回答者本人も認識していない可能性があるため、正確に測定することに困難があることは否めない。しかし、看護師養成課程で学習したと臨床とのつながりを感じられるように取り組んでいくことは必要と考える。

4. 対応分析

特徴的でない語は、自由記述内容をそのままテキストマイニングを行ったため、表れた結果と考える。また、それぞれの回答を外部変数としたときの特徴的な語を分析した結果については、それぞれの理由がよく説明されていた結果であり、回答者の考えの違いが表れた記載内容であったと考える。

そして、影響していると「思う」と答えた看護師とそうでない看護師の違いについては、看護師としての仕事をしていく中で、学習してきたことや経験したことをどのように解釈しているかによって、それぞれの認識に違いが生じたものと考えられる。

浅沼らは、中堅看護師が看護理論の講義を受けて看護理論と実践のつながりに気付き、看護理論を活用して事例を分析することで対象の捉え方が変化すると報告している⁹⁾。

このことから、看護師は就業後も自己研鑽を続けていくため、今後、改めて看護理論について学習していくことで、今までの経験したことの認識が変化していく可能性があると考えられる。

そして、養成課程で学習したこと以外にも、研修などで学ぶ機会はあると考えられるため、看護実践が適切なものであるかなどのリフレクションにつながるように、効果的な研修を行うことで、よりよい看護実践につながっていくことが期待できる。

5. 自由記述

看護観については、学生時代の実習や臨床での経験、職場の同僚や先輩、今までの人生や自分や家族が体験したことなどが影響していると考えていることが明らかとなった。

これは、畑中らの研究で、【看護観形成過程】の中に〈自己の看護が揺らぐ体験に直面〉、〈体験との向き合い〉、〈自己の看護の考え方の広がり〉、〈目指す看護の定まり〉などのカテゴリーがあげられており¹⁾、今回の結果もそれを裏付けるものであったと考える。

また、秋山らの研究では実習を経験することにより、看護観に変化が起きていたと報告があり¹⁰⁾、松江らの文献検討でも臨地実習で得た看護観の明確化と臨地実習前後の看護観の変化について、研究されていると報告がある¹¹⁾ことから、看護観には臨地実習の影響は大きいと考えられる。

これらのことから、看護観には、患者との関わりが重要と考える看護師が多いことから、実習での関わりや学習が大切であるといえる。実習では単に患者とコミュニケーションをとるだけでなく、どのような生き方をしている人であるかなど、患者を多面的に捉えることができるように教育していく必要があると考える。

VI. 結論

今回の調査を通して以下のことが明らかとなった。

看護師養成課程で看護師が多く学習していた看護理論はナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、ペプロウ、ロイのものであった。

性別・年代・経験年数・4年制看護大学卒かという対象の背景と、看護理論が看護観の形成に影響していると感じるかという回答の割合には統計的な違いは認められなかった。

テキストマイニングの手法を用いて可視化し、看護理論が看護観に影響を与えたと「思う」ことに対する理由の特徴的な語は〈基礎〉、〈考え〉、〈事例〉、〈看護〉、〈参考〉、〈納得〉、〈大切〉、〈今〉、〈振り返る〉であった。

看護理論以外に影響しているものについて特徴語は〈患者〉、〈経験〉、〈先輩〉、〈関わり〉、〈体験〉、〈臨床〉、〈家族〉、〈自分〉、〈実習〉が抽出された。

本研究は平成30年度千葉科学大学教育研究経費を使用して実施した。また、本研究にご協力いただいた看護管理者および看護師に深く感謝する。

なお、本研究は第39回日本看護科学学会学術集会および第6回世界看護科学学会学術集会 (The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science) で発表した内容を論文としてまとめ直したものである。

引用文献・参考文献

- 1) 畑中 純子, 伊藤 収: 看護観が体験から発展するまでの看護師の思考のプロセス. 日本看護科学会誌, 36 (0), 163-171, 2016.
- 2) 薄井 坦子: 科学的看護論 第3版 (新装版). 59, 日本看護協会出版, 東京, 2014.
- 3) 城ヶ端 初子, 樋口 京子: 看護理論の変遷と現状および展望. 大阪市立大学看護学雑誌, 3, 1-11, 2007.
- 4) 立石 有紀, 岩本 真紀, 近藤 美月 他: 看護学生の看護観の形成過程 看護学概説, 看護理論の科目前後における看護観の変化から. 香川医科大学看護学雑誌, 6 (1), 63-67, 2002.
- 5) 浅沼 良子, 柳原 真智子, 柏倉 栄子: 中堅看護師の「看護観」確立を目指した学習方法の1考察 実践に生かす看護理論をもちいた学習プロセスの分析. 日本看護研究学会雑誌, 24 (3), 377, 2001.
- 6) 鎌田 美智子: (看護過程を臨床に生かそう 効果的な実践をするために (第2回) 看護過程と看護観 (看護理論) の関係. 看護実践の科学, 18 (2), 12-15, 1993.
- 7) Kanda Y: Investigation of the freely available easy-to-use software. Bone Marrow Transplantation, 48, 452-458, 2013.
- 8) 樋口 耕一: 社会調査のための計量テキスト分析 第2版. ナカニシヤ出版, 東京, 2020.
- 9) 平成30年衛生行政報告例 (就業医療関係者) の概況 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/18/> (参照 2021-9-1)
- 10) 秋山 優美, 加藤 隆雄: 臨地実習における看護学生の看護観の変化 基礎看護学実習 I・II の「実習のまとめ」のテキストマイニング分析. 中部大学生命健康科学研究所紀要, 17, 55-62, 2021.
- 11) 松江 なるえ, 富田 幸江: 臨地実習における学生の看護観に関する文献の動向と課題. 埼玉医科大学看護学科紀要, 10 (1), 41-48, 2017.